

1

- a 行程
b 創成
c 遺産

2

- I 解くい
II 最く題
3 確率計算

(完答)

(完答)

4

- A 観
B 講
C 不
5 直観
6 (記述題)

B

C

5

直観

6

(記述題)

7

- 自くと
8 ウ
9 フレーム問題
10 もくみ
(「や(枠)」を含むものも可)

(完答)

(「や(枠)」を含むものも可)

(完答)

2

- a 幸福
b 境目
c 誠実

2

- (記述題)
3 A 脳
B 縦
C 目
D 当
4 旧くた
(完答)

3

A

脳

B

縦

C

目

D

当

4

旧

く

た

(完答)

5

- 構く度
6 羨く妬
7 価く観
8 (記述題)
(完答)

(完答)

6

羨

く

妬

(完答)

7

価

く

観

(完答)

8

(記述題)

(完答)

9

- 感動
10 エ

1

識	野	使	そ
を	の	う	れ
創	知	の	を
る	識	か	い
こ	を	わ	つ
と	組	か	ど
も	み	ら	こ
自	合	な	こ
分	わ	い	で
か	せ	し	ど
ら	て	、	の
は	新	複	よ
し	し	数	う
な	い	の	う
い	知	分	に

(同意可)

2

思いこみから解放され、心境が変化する

(同意可)

8

し	ラ	か	才
た	イ	っ	能
情	ド	た	が
け	や	こ	な
な	ア	と	く
い	イ	で	画
人	デ	、	家
物	ン	過	と
。	テ	去	し
	イ	に	て
	テ	す	認
	イ	が	め
	を	り	ら
	放	、	れ
	棄	プ	な

(同意可)

【配点】

その他	1	1
	6	4
その他	2	2
	8	3
各4点×14	各2点×13	各6点×3
56点	26点	18点

1

1 a 「行程」は、同音異義語に注意すること。前後から「過程」に類する意味であることがわかる。「工程」は作業の手順のニュアンスが強いので、道筋・行き先の意味合いになる「行程」とする。b 「創成」は難しい言葉だが前後から考えてほしい。c 「遺産」は残された財産のこと。「遺」の字形に注意する。

2 I：結論から言えば直前を取ればよいのだが、こういった修飾語が言いかえなのかどうかはその都度検討が必要である。ここではIIと合わせて考えることも有効である。II：次段落に「(つまりオーブンエンドの反対なら)」という箇所があるので、直前の「問題のゴールと探索の範囲がはっきりしている」が「オーブンエンドの反対」であることがわかる。それを表現した字数の合う箇所を答える。段落冒頭の「よい例が」と結びつけると見つけやすい。

3 問いの文言を大切にし、同段落内から探していこう。

4 A 「人によって『正解』が異なってしまう場合さえある」とあるように、文化や個人の考え・好み・傾向などに関わるものである。どういったものに価値を置くかという意味の言葉になるので、もの見方を表す「観」を用いる。B 「講演」と「公演」の使い分けに注意する。「講演」は話をする場合、「公演」は芸術やパフォーマンスなどに用いるのが一般的な使い分けである。C には「不」が入る。「学校不要論者ではない」という二重に否定する形であり、後続部では学校の素晴らしさを述べている。

5 段落の話題となっていた言葉を答えれば正答となる。「ChatGPTに欠けているのは」とあるので、対比も念頭に置いて判断する。

6 傍線部を含む一文を読むと、「人工知能の分野では、このことを『フレーム(枠)問題』と呼んでいる」という言い回しになっているので、「このこと」の指示内容をまとめれば答えがでるはずである。前段落の乳幼児の言語習得と対比して、AI、すなわち人工知能について述べている当該段落を要約することになる。とくに「しかし、これだけは言える」以降がAIの不得意なこと、すなわち「問題」であるから、「知識を使うこと」の中身を説明していくことが中心になる。

7 傍線部を含む一文、さらに言えばダッシュ(――)で囲まれた挿入部分を読むと、「言い換えれば」という言葉が見つかる。したがって、その言い換え部分を確認して字数が合えばそこでよいだろう。似たような内容を述べた箇所は本文中に複数あるが、「接地」といった、説明を求められている言葉がそのまま残った箇所ではないほうがよいだろう。

8 後続部分の具体例と照らし合わせればよい。こういった問題では、本文の言葉を意図的に言いかえた選択肢もまざっていることがあるので注意が必要である。字面だけ照合するのではなく、選択肢をしっかりと読み、内容を精査しよう。

9 直前に「子どもたちもコンピュータと同じように」とあるので、⑦の中には「コンピュータ」の場合に起こることが入る。また、直後の「直面してしまう」という言い方からは⑦の内容がネガティブなものであることがわかるので、「コンピュータ(AI)」に起こる「問題」を答えればよいことがわかる。

10 入試に向かうにあたって、問いの文言に対する感性を養ってほしい。そのまま「なぜ」「どういうこと」と問うような問題と、問いのなかで問題を設定すべく言い直している設問では必ずと踏むべき手順も異なってくる。ここでは「筆者の考える『学ぶ力』」という文言に注目し、直前の「自ら知の世界を探索すること」であることをまず読み取る。「しなくなる」と「喪失してしまっている」のリンクを見ればよいだろう。その上で、問いでは「どういうことを知ろうとすることか」と問われているので、「(自ら)知の世界を探索する」を「○○を知ろうとする」と言いかえられれば、「○○」を答えればよいことがわかる。「知の世界の探索」の同内容表現は「記号接地」の説明がなされていた箇所にあるはずである。

2

1 a 「幸福」の「幸」はよこぼうの本数に注意。b 「境目」・c 「誠実」も字形まで正確に書ききること。

2 復元しようとしている旧日下部邸の襖絵に描かれている「風」についても示唆しているのであろうが、設問の指示にしたがって、物語の展開に関わるものとして読むことを試みよう。「追い風」ともある通り、本文全体を通して、これまでの自分の生き方であり、また先入観でもあるような価値観を揺さぶる、さまざまな現実を一杯向き合うように変化していると言えるだろう。

3 A 「思い出している」場面であることを把握しよう。B 「悲しげだった：安堵の光を灯す」とあるので、肯定的な返答であるだろう。C 「目星がつく」という慣用的な表現を覚えておく。D 「当を得る」と「的を射る」を混同しないようにしておこう。

4 「ミュージック・ビデオを作るため」の「ソフト」などを使うようなことなので、映像に関わるようなことであろう。したがって、画像を編集しているところをイメージして、直後の「3DCG」の一件を答えればよい。

5 ⑤線「真には良いものに見えなくても」とあることから、この付近の箇所に「良いものに見えない」理由も書かれているのではないかと見当をつけられると探しやすい。「構成美や写実の精度を抜きにして、日下部家が素晴らしと感じた要素」とあるので、「構成美や写実の精度」は良くないのに、それ以外のところで素晴らしと感じたのだろうか、と真が考えていることがわかる。

6 ここでの「コップ」が比喻であることは自明だと思えるような読み方をしてほしい。唐突に出てきたのではなく、同ページの冒頭付近に「心のコップ」という表現が出てきていた。「表面張力」もそれに関連した表現。普段なら表には出さないような思いということである。「暗い色の中身がドバドバ零れていた」ともあるので、ネガティブな心情であることもわかる。

7 直前の発言を受けての内容になっているのが、傍線部を含む箇所である。「巧拙は：必ずしも一番の理由には、ならん」とあり、「一番ではない」の意味合いを検討するためにさらにさかのぼると、「価値重視の先入観」と「誰かが大切にしたものやという身近な見方」の対比が述べられている。

8 傍線部も問いの一部であることを強く意識してほしい。ざっくりと父に対する思いというだけでなく、「自分の作品を作っていないかった」という部分も念頭に置いておけると探しやすいだろう。

9 「その」とあるので指示先を検討する。「模写」という共通点も把握しておこう。

10 父の人物像はもちろん、そこから模写に対する考え方や模写を通じて父が目指していたものを知り、それまで低く評価していたものが実は自分の理解を超えた「とんでもない」ものだったことを感じ始めている。そのような目線で見ると、準備の大切さなど、これまでも自分が軽んじてきたことが実はとても大事にすべきことだったと、価値が反転しているのである。